



学ぶ楽しさ
日本一



令和6年度
南あわじ市の
教育方針



南あわじ市教育委員会
南あわじ市・洲本市小中学校組合教育委員会



令和6年度
重点取組事項

- (1) ふるさとを創造する児童生徒育成プロジェクトを生かした資質・能力の育成
- (2) 「読解力」向上に向けた言語活動の充実と読書活動の推進
- (3) 児童生徒がICTを適切に活用する学習活動の推進
- (4) 防災ジュニアリーダーを核とした実践的な防災教育の推進

(1) ふるさとを創造する児童生徒育成プロジェクト

世界に誇る伝統芸能である淡路人形浄瑠璃を題材とした「南あわじっ子につけたい力」[※]3つの資質・能力の育成をめざす小中学校9年間のコアカリキュラムである。何を学ぶか、どのように学ぶのかを子ども達とルーブリック評価表で目標を共有し、淡路人形浄瑠璃の歴史や背景や魅力を知り、まとめ伝える活動を校内だけでなく、社会に働きかけ提案できる力を育成する。

- ・各学年カリキュラムの実施・検証・改善を行い、ブラッシュアップを通じて教職員研修の充実を図る。
- ・タブレット端末を効果的に活用する学びの場とし、教科の学習の充実発展を図る。

(2) 「読解力」向上、読書習慣づくり

学習の基盤となる資質・能力である言語能力の育成を図るために、各教科等における言語活動の充実を図るとともに、読書活動の充実による習慣づくりを行い、「読解力」の向上につなげる。

- ・すべての教科等においてそれぞれの特質に応じた言語活動の充実を図る。
- ・朝読書や絵本の読み聞かせ等を通して「読書する楽しさ」の醸成と習慣づくりを図る。
- ・市立図書館と学校との連携を図り、子どもたちの読書活動が充実するよう支援する。

(3) ICTの特性を活かした学びの推進

GIGAスクール構想により、導入された1人1台のタブレット端末、提示装置等のICT機器を活用し、論理的思考力や情報活用能力・情報発信力、コミュニケーション能力の向上を図る。また、個別最適な学びや多様な人々と学び合う協働的な学び等に取り組み、質の高い教育の実現をめざす。

- ・様々な教育活動においてタブレット等のICT機器の効果的な活用を工夫し、主体的で対話的な学びの充実を図る。
- ・デジタル社会における「善き社会の担い手」をめざす「デジタル・シティズンシップ教育」の推進を図る。

(4) 防災ジュニアリーダー養成事業

参加者を募り、防災ジュニアリーダー認定講座を継続する。また、中学校間及び中学校と淡路三原高等学校とのパートナーシップ協定の締結、舞子高等学校防災出前授業などを引き続き実施するとともに、ユース防災プロジェクト等、子どもたちが校種を超えて取り組む防災教育を展開する。助け合いやボランティア精神など「共生」の心を育み、人としての生き方・あり方を考える防災教育を推進する。

- ・講座や地域防災活動等で、リーダーとして行動する機会を提供することで、主体的に防災に関わるジュニアリーダーを育成する。
- ・大学生や大学院生、高校生、小中学生との交流を通して、防災を多面的に捉え、自ら未来を拓いていくための防災力の育成を図る。

基本方針1 施策体系表

基本的方向

重点目標

主な取組

(1) 「確かな学力」の育成

ア 学力向上の推進

- ① 「読解力」の向上 ●
- ② 基礎基本の徹底
- ③ ふるさを創造する児童生徒育成プロジェクト ★
- ④ 読書習慣づくり ●

イ 国際理解を深める教育の推進

- ① ALT・STを活用した外国語の授業
- ② 「COOL AWAJI」の活用

ウ 情報活用能力の育成

- ① プログラミング教育
- ② ICTの特性を活かした学びの推進 ●

(2) 「豊かな心」の育成

ア 道徳教育・人権教育の推進

- ① 道徳教育と人権教育研究プロジェクト

イ ふるさと意識を醸成する教育の推進

- ① 副読本の活用

ウ 兵庫型「体験教育」の推進

- ① 環境体験学習
- ② 自然学校

(3) 「健やかな体」の育成

ア 体力・運動能力向上の推進

- ① 運動能力テスト
- ② 体力アップサポート事業

イ 食育の推進

- ① 食育推進事業

ウ 健康教育・安全教育の推進

- ① 感染症・熱中症予防等のための能力・態度の育成
- ② 交通安全・防犯教室

(4) 特別支援教育の推進

ア 連続性のある多様な学びの充実
(縦の連携)

- ① 個別の教育支援計画
- ② 授業のユニバーサルデザイン化
- ③ 中高連携シートの活用

イ 一貫性のある支援体制の構築
(横の連携)

- ① 関係機関との連携
- ② あわじ教育相談

(5) キャリア教育の推進

ア 体系的・系統的な教育の推進

- ① キャリア・パスポート等の活用
- ② 幼こ保・小・中・高の連携
- ③ 小中一貫教育

イ 社会に触れる機会の充実

- ① トライやる・ウィーク

(6) 幼児期の教育の充実

ア 幼児期における教育の質の向上

- ① 遊びから学びに繋がる体験活動
- ② 本との出会いの場の提供
- ③ 職員の研修

イ 幼児期と児童期の円滑な接続

- ① 幼こ保小合同研修
- ② 交流活動の充実
- ③ 育児力の強化

(7) 南あわじ市の防災教育の推進

ア 防災教育の充実

- ① 防災ジュニアリーダー養成事業 ★
- ② 防災出前授業
- ③ 自然学校「防災学習」

イ 学校防災体制の充実

- ① 「学校防災マニュアル」を踏まえた学校防災体制の充実
- ② 避難所運営研修

★：第3期南あわじ市教育振興基本計画の特色ある取組 ●：令和6年度重点取組

※3つの資質・能力

- 互いの弱みを認め合い、チームとして高め合う力
- 周りの状況からよみとったり、自ら収集したりした情報を処理し、活用する力
- 課題を明確に把握し見通しをもって主体的に取り組む力



令和6年度
重点取組事項

- (1) スクールチャレンジ事業の活用による学校の特色づくり
- (2) 学ぶ楽しさ支援センターの活用
- (3) いじめの積極的認知と組織的対応の徹底
- (4) 学校部活動の地域連携・移行の推進
- (5) 人権教育基本方針に基づく人権教育の推進

(1) スクールチャレンジ事業の活用

学習指導要領の具現化、学力向上、特別支援教育への対応、いじめ・不登校問題など、各校で異なる様々な課題や特色に応じて主体的に独自の切り口で課題解決に取り組んだり、各校の独自の教育活動や研究の成果をさらに発展させることで、より特色のある学校づくりを推進する。

- ・自校の課題を明確化し、共通理解を図る。
- ・テーマに基づいて焦点化を図り、課題解決や特色化につなげる。
- ・ルーブリック評価等の手法を活用し、事業成果の検証を行い、指導と評価の一体化を図る。

(2) 学ぶ楽しさ支援センターの活用

学校教育のさらなる充実を図り、様々な課題を抱える子どもの学びを保障するなど、教育に係る多様な人々をつなぐ拠点施設として「学ぶ楽しさ支援センター」を設置し、だれもが学ぶ楽しさを実感できる施策を展開する。

- 【3つの機能】
1. 教職員の自主的研修支援
 2. 防災教育の拠点
 3. 社会的自立支援（第3の居場所）

- ・教職員が主体的に楽しく学び「学ぶ楽しさ日本一」を体感できる研修の支援体制の構築。
- ・防災教育の拠点及び防災教育のできる人材育成。
- ・課題を抱える子どもに対応した学びを支援。

(3) いじめ防止・解消、不登校児童生徒への支援の充実

いじめや不登校を含めた児童生徒のあらゆる問題行動の発生を未然防止、早期発見・早期対応するための予防的生徒指導の充実を図る。また、様々な悩みを抱える児童生徒一人一人に対して、困ったときに助けを求める行動力を養うとともに、専門家と連携し、きめ細やかで組織的な支援体制の充実を図る。

- ・学校全体で生徒指導の充実に組織的に取り組む。
- ・問題行動等の未然防止、早期発見・早期対応を図る。
- ・児童生徒理解を基盤とした教職員の対応力の向上をめざす。

(4) 学校部活動の地域連携・移行の推進

少子化が進む中、将来にわたり中学生がスポーツ及び文化芸術活動に継続して親しむことができる機会を確保するため、地域と学校の連携のもと、中学生自身が自主的、主体的に選択したスポーツ及び文化芸術からなる地域クラブ活動へ参画できる環境づくりを地域の実情に合わせて推進する。

- ・学校、児童生徒、保護者、地域のスポーツ及び文化芸術関係者へ事業理解を図る。
- ・学校部活動の地域連携・移行について、各種関係団体、保護者、地域クラブへの周知徹底を図り、人材確保に努める。

(5) 人権教育基本方針に基づく人権教育の推進

「確かな人権意識と実践力をもった人づくり」をめざし、人権に対する正しい理解を培い、日々の生活に生きてはたらく人権意識とさまざまな場面や状況下での具体的な態度や実践力を育成する。
 また、同和問題、女性、子ども、高齢者、障がいのある人、在日外国人、インターネット、多様な性等の人権に関わる課題の解決に向け、人権教育に取り組む。

- ・児童生徒の人権を守り育てる教育実践力の向上を図る。
- ・人権文化に満たされたまちづくりを推進する人材を育成する。

基本方針2 施策体系表



★：第3期南あわじ市教育振興基本計画の特色ある取組 ●：令和6年度重点取組



令和6年度
重点取組事項

- (1) アフタースクールの拡充と「まちの先生」の人材活用
- (2) スポーツや文化の本物の魅力にふれ、夢を育む機会の提供
- (3) 市民とめざす図書館づくりの推進
- (4) 松帆銅鐸を生かした学習活動の推進と郷土愛の醸成

(1) アフタースクール事業

放課後児童健全育成事業（学童保育）と放課後子ども教室事業を融合したアフタースクール事業は、放課後の時間に、遊びを通じて自主性、積極性、コミュニケーション力等を身に付け、自ら考え判断して行動をすることができるように多種多様な体験活動を提供する。

体験活動の講師には、専門講師に加え、「まちの先生」といった地域で趣味・特技を生かしたい人、子どもとのかかわりに関心を持った人や企業等に参画をしてもらい、地域とともに大人も子どもも学び合う安心安全な放課後の居場所づくりを推進する。

- ・11校区（新規2校区）での開設に加え、すべての小学校区開設に向け、さらなる事業展開を図る。
- ・活動内容の広報に努め、アフタースクール事業の認知度を上げて、人員の確保を図る。
- ・事業に協力をいただく体験活動講師（まちの先生）や企業を増やす。
- ・スタッフの資質向上を図るため、研修等を通じた人材育成を強化する。
- ・子どもたちが自ら考えたプログラムを実施することへ発展させる。



アフタースクール事業

夢プロジェクト



(2) 夢プロジェクト

小中学生を対象に、著名なスポーツ選手・文化人等を講師として招き、講演会等を開催してスポーツや文化の魅力を体験し、努力する大切さや友達の大切さなどを伝える。本物に触れ合う機会を提供することにより、大きな夢を持って今後の活動に活かすと豊かな生活を送れる機会を提供する。

- ・小学校4校（八木、市、神代、賀集）で実施する。
- ・中学校3校（西淡、南淡、沼島）で実施する。
- ・アンケートを実施して小中学生の思い等を把握し、事業の改善を図る。
- ・事業成果の周知を図り、SNS等を活用し認知度を高める。
- ・プロ野球選手やVリーグバレーボール選手による体験教室などを市内で実施する。

(3) 市民とめざす図書館づくり

南あわじ市立図書館の公園と休憩室の改修工事に続き、図書館施設を明るく居心地の良い空間に整備することで、市民の読書活動を推進するとともに、子どもの読解力を支える図書館づくりに取り組む。

- ・ブックスタート、読書手帳の発行、読み聞かせ講座、リサイクルフェア等の事業を継続し、すべての世代へ切れ目のない読書活動を支援するとともに、ワークショップを開催し、市民の声を取り入れた図書館運営を図る。
- ・図書館の一部及び自習室のリニューアル等を実施し、市民が快適に読書活動できる施設整備を進める。

(4) 松帆銅鐸をはじめとする歴史文化遺産の普及促進

松帆銅鐸の研究結果や歴史的価値を広く伝え、各地区の史跡名勝・歴史遺産を活用し、子どもたちの知識と体験を組み合わせた多角的な学習活動に寄与するとともに、講演会・市民講座の充実を図り、郷土愛を育む。

- ・展覧会事業、鑄造体験、ワークショップ及びフィールドワークなどの実体験を背景に、松帆銅鐸をはじめとする歴史遺産を活用し、想像力や思考力を養うことで子どもから大人まで年齢を問わず、特色ある南あわじ市の歴史を学び、多角的に興味関心を喚起する環境づくりに努める。
- ・松帆銅鐸を国指定文化財となるよう働きかけを行い、文化財としての価値を上げる取り組みを行う。

基本方針3 施策体系表

基本的方向

重点目標

主な取組

(1)

主體的に生きるための学びと場の充実

ア 学びの充実

イ 社会教育施設の充実

- ① アフタースクール事業 ★
- ② 夢プロジェクト ●
- ③ 図書館事業の振興と充実
- ④ 公民館活動の振興と充実
- ⑤ 淡路三原高等学校地域活動支援事業
- ① 社会教育施設の改修
- ② 展覧会事業やワークショップ事業の開催
- ③ 歴史・文化資料の保存、管理
- ④ 滞在型図書館の推進 ●

(2)

伝統文化(芸術)の伝承と発展

ア 体験を通して学ぶ伝統文化(芸術)の伝承と発展

イ 文化財の保存と活用

- ① 子ども伝統芸能発表会
- ② 淡路人形浄瑠璃の保存伝承と後継者育成
- ③ 地域に根ざした歴史体験活動の推進
- ① 歴史文化遺産の保存、整備と活用
- ② 名勝慶野松原の保存活用
- ③ 松帆銅鐸の調査研究、普及啓発 ★

(3)

スポーツに親しむ環境づくり

ア 生涯スポーツ等の推進

イ 社会体育施設・設備の環境整備

- ① 市民スポーツの振興
- ② スポーツ協会との連携
- ① 温水プール運営事業
- ② スポーツ施設の適正管理
- ③ 学校施設の開放事業

★：第3期南あわじ市教育振興基本計画の特色ある取組 ●：令和6年度重点取組

第3期南あわじ市教育振興基本計画

テーマ

学ぶ楽しさ日本一

～夢と志を持ち、ふるさと南あわじの未来を創る人づくり～

めざす項目

本市は、第2次南あわじ市総合計画(平成29～38年度)の中で、まちづくりにおいては「人」がすべての中心であるとの考えのもと、「ひかり輝く人づくり」を柱の1つに位置付け、次世代を担う人材の育成を進めています。

それを受けて、本教育委員会では、令和2年度から5年間の第3期南あわじ市教育振興基本計画のテーマを『学ぶ楽しさ日本一』としました。そして、次のような「学ぶ楽しさ」を追求し、実感できる取組を学校・家庭・地域で推進していきます。

- ① 「わかる」「できる」楽しさ
- ② 困難なことにもチャレンジする楽しさ
- ③ 考え工夫し、想像する楽しさ
- ④ 仲間と協働してやりとげる楽しさ
- ⑤ ふるさとをよりよく知る楽しさ
- ⑥ 思いや考えを表現する楽しさ
- ⑦ 本物にふれる楽しさ
- ⑧ 夢や志を見つけ、社会に貢献する楽しさ

この「学ぶ楽しさ日本一」の実現を目指す取組では、「ほめること」を大切にすることで「自己肯定感」を高め、「読解力」を核にしながら、思考力・判断力・表現力、コミュニケーション能力や創造力、やり抜く力など様々な資質・能力を向上させていきます。

それにより、本市の子どもたちが将来「なりたい自分になれる」ように、「夢と志を持ち、ふるさと南あわじの未来を創る人づくり」を進めていきます。

3つの柱

- | | |
|-------|-------------------|
| 基本方針1 | 主体的な学びを深める教育の推進 |
| 基本方針2 | 安心して学ぶことができる環境の構築 |
| 基本方針3 | 生涯を通じて学び続ける地域の創生 |